

## 1. はじめに

2019年の台風15号及び19号、そして2020年からの新型コロナウイルス感染症流行により、当館は繰り返し臨時休館した。2019年から2022年2月までの間に延べ6回、171日間休館し、その間、図書館利用者（以下、利用者）の様々な声を聞く機会があった。それは「普段はあまり気にしていなかったけど、図書館が開いていないと困る」という好意的な意見から「このような状況下では、休館していたほうがいい」というような意見、そして感染をおそれて引き返した利用者もいる。開館後もなかなか利用者が戻ってこない状況で、2018年（臨時休館がない年度）と2020年度の利用状況を比較すると、貸出冊数は37.9%減少、来館者数は82.2%も減少した。

私にとってこのことは、図書館の存在意義を考えさせられる十分な出来事であった。図書館は地域住民にとってどのような存在なのか。何を求められているのか。必要と思ってもらえるには、どうしたらいいのか。即効性のある対応策はないかもしれないが、今回のビジネス・ライブラリアン講習会で学んだことを糧に、地域住民に必要とされる図書館づくりを提案していきたい。

## 2. 山武市の現状と課題

### (1) 現状

山武市は千葉県の東部に位置し、九十九里浜に面している総面積146.77k㎡の自治体である。2006年3月に山武町・成東町・蓮沼村・松尾町の4町村が合併して山武市となり、まもなく市制17年目を迎える。

山武市は、稲作や野菜、果実等の生産も盛んで、サンプスギ等の林産物、九十九里浜の海の幸と自然の恵みが豊かな地域である。また、いちご狩りや海水浴等も楽しめる観光リゾート地としての側面もあり、魅力ある地域資源を有している。

しかしながら、千葉県が公表している「令和元年度（2019）財政状況資料集」によると、中心となる産業がないため財政基盤は弱く、生産年齢人口の減少により市税の減少が今後も見込まれている。<sup>\*1</sup>人口は49,327人、うち65歳以上の市民は人口の36.4%（2022年2月28日現在）<sup>\*2</sup>と少子高齢化が進んでおり、2022年度には新たに過疎地域に指定される予定である。

### (2) 課題

山武市の課題としては、認知度の低さが挙げられる。株式会社ブランド総合研究所が発

表した「地域ブランド調査 2020」による市区町村魅力度ランキングで、山武市は全国最下位タイの 997 位、認知度は 908 位であった。認知度が低いということは、移住先や就職先、会社や工場の立地、観光先として候補に挙がることもない、ということである。これは、山武市が抱えている問題でもある人口減少、少子高齢化に拍車をかける大きな課題である。

### 3. 山武市有機の里プロジェクト

このような課題を解決し、山武市ブランドを確立するため、山武市有機の里プロジェクトを提案する。

#### (1) 山武市の農業について

合併前の山武町は、2003 年に有機農業推進特区として国から認定され、農業生産システムの確立や環境にやさしい農業、遊休農地の利活用等を推進してきた。<sup>\*3</sup>

現在の山武市においても、耕地面積 5,730 h a（2020 年値）で、全国平均 11.6%、千葉県平均 23.9%に対し、山武市は 39.0%と、耕地が占める面積が広く、農業が盛んな地域である。<sup>\*4</sup>

『山武市地域新エネルギービジョン～バイオマスエネルギー具体化検討～』では、サンブシ病害木や間伐対象木の有効活用方法として、灰にして有機農家等に還元し、堆肥として利用、安全・安心な有機農業を推進することが検討されている。<sup>\*5</sup>また、山武市有機農業推進協議会の事務局がある農事組合法人さんぶ野菜ネットワークでは、2 年間以上の有機農業研修を経て、住居や農地探し等を含めたサポートを行う新規就農支援を行う等、官民一体となって農業を推進している。

なお、全国における有機食品市場は将来性が期待できる。農林水産省から公表された「有機農業をめぐる事情及び有機農業推進施策の状況」によると、「我が国の有機食品の市場規模は、消費者アンケートにより、2009 年に 1,300 億円、2017 年に 1,850 億円と推計。」<sup>\*6</sup>とあり、増加傾向である。農林水産省が定める「有機農業の推進に関する基本的な方針」（2020 年 4 月改定）においても、有機農業の取組拡大を推進し、国内の有機食品の需要は 2030 年に 3,280 億円、有機食品の輸出額は 2030 年に 210 億円の需要拡大を見通している。<sup>\*7</sup>

#### (2) 事業の概要

山武市有機の里プロジェクトでは、3 件の事業を行う。2 件は、イベントを通じて山武市を「有機の里」として市内外に周知するための事業。1 件は、有機栽培への理解を深めるために、利用者・農業従事者に情報提供を行う事業である。

### (3) 事業の目的・効果

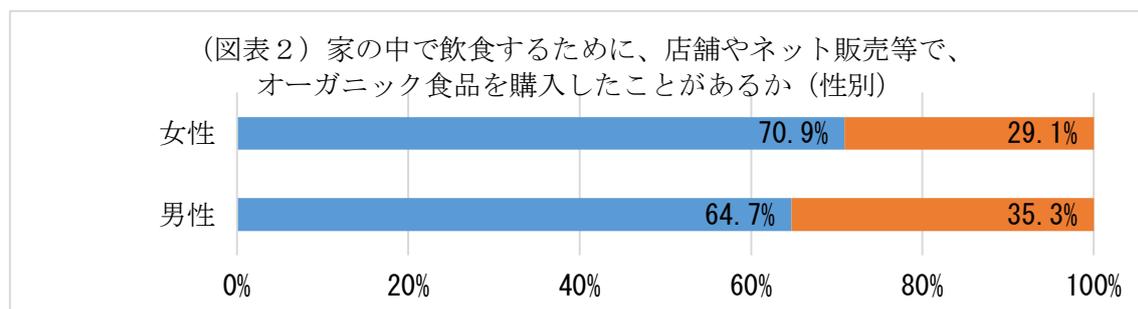
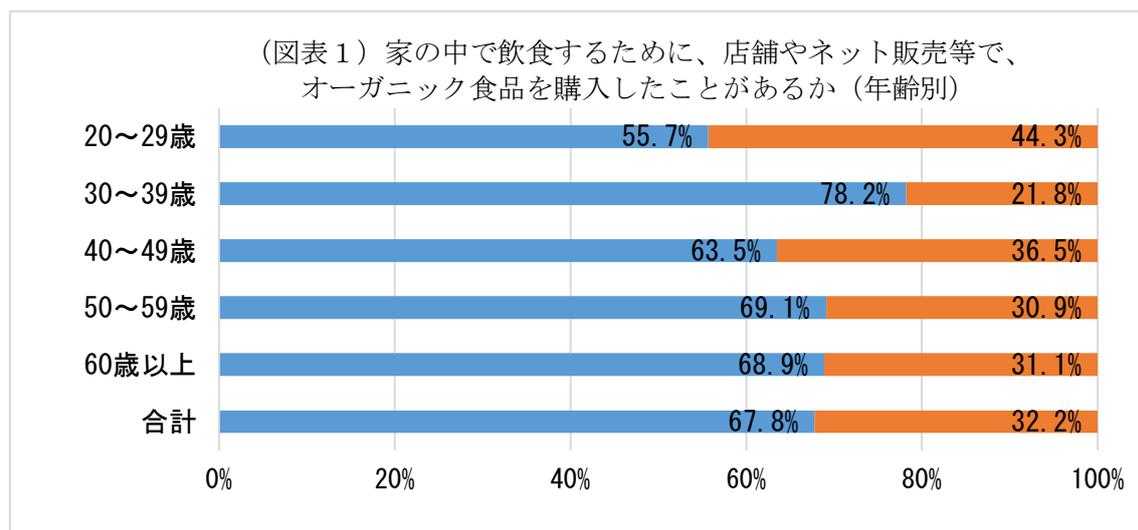
目的は、特産物の発掘および情報発信をしていくことで、「食」から「山武市」を認知してもらうことである。「有機栽培といえば山武市」と認知されるように事業を実施し、認知度向上により経済活性化を図る。そのなかで図書館は、市民以外も利用できるという施設の特性を活かし、市外への情報発信に努め、また情報提供のノウハウを活かした取り組みを実施していく。

また、山武市長の推進施策である「特産物PR」や「SDGsの取り組み」、「ふるさと納税の増収」につながり、地産地消の促進や市区町村魅力度ランキングの下位脱出も期待できる。

### (4) 事業の対象者

事業の対象者は、①30代女性を中心としたオーガニック食品に興味がある利用者、②関東近郊（市外）在住の親子、③農業従事者・新規就農検討者・販売者である。①の対象者については、農林水産省の調査により、オーガニック食品を購入したことがある世代は30代が一番多く、性別では女性が多かったためである。（図表1、2）

なお、事業を開催する上で年齢・性別による参加制限は設けないが、後述する講座内容や広報の方法等に目的とする対象者層を反映する。



(出所) 農林水産省「令和元年度(2019) 食料・農林水産業・農山漁村に関する意向調査 有機食品等の消費状況に関する意向調査」\*8より作成

(5) 事業の具体策①

山武市を「有機の里」として市内外に周知するための事業として、有機の里・さんむキャンペーン「くったいよ(山武地域の方言で「食べていってね」という意味合いの言葉)」を提案する。

このキャンペーンでは、スタンプラリーを開催する。参加者は、①講座に参加、②図書館資料(農業に係る資料・レシピ本等)の借用、③農産物直売店「山武緑の風」を訪問することで、ラリーを達成することができる。

キャンペーンにおける講座は、対象者を利用者と農業従事者・販売者に分け、次の内容で開催する。

対象者	講座名	内容
利用者	有機栽培ってなに？	有機栽培や有機JASマークについて学ぶ。
	やってみよう！家庭菜園	プランター等で可能な野菜作りを行う体験講座。
	クッキング教室	山武市産有機野菜を材料にした料理を作って試食。試食は有機野菜生産者との交流会も兼ねる。
農業従事者 販売者	プロから学ぶ有機農業	有機栽培の具体的な栽培方法や病害虫対策等について学ぶ。
	POP作成講座	店舗における商品案内について、POPを作成して学ぶ。
	使ってみよう！ ルーラル電子図書館	「ルーラル電子図書館」(一般社団法人農山漁村文化協会(以下、農文協という。))が運営する農業情報サイト)の利用方法を学ぶ。

また、農産物直売店「山武緑の風」は、道路を挟んで図書館のななめ向かい側に位置し、店頭にスタンプ台を設置してもらう予定である。この店舗は有機JAS認証事業者である農事組合法人さんぶ野菜ネットワークの野菜を取り扱っているため、参加者の購買意欲が高まり、山武市産有機野菜等を味わってもらう機会が多くなると期待できる。

なお、スタンプラリー達成者には、山武市産有機栽培ニンジンを使用したジュースをプレゼントする。

(6) 事業の具体策②

山武市を「有機の里」として市内外に周知するための事業の2件目として、図書館・さんぶの森公園(図書館と同一敷地内、図表3)に日帰り旅行もしくは一泊できるツアーを

開催する。なお、参加者からは飲食費等の実費を徴収する予定である。

①日帰り旅行（ナイトツアーコース）

夜に開催し、夕食はバーベキューで有機野菜や山武牛等、山武市の特産物を味わってもらい、食後はイベント（おはなし会、映画会、虫取り体験等）を楽しめるコース。

②一泊旅行（お泊まりコース）

上記の日帰り旅行（ナイトツアーコース）とあわせて図書館に宿泊できるコース。朝まで読書を楽しんだり、施設内に用意したテントで就寝したりすることもできる。なお、施設には警備員が常駐しているので、安全性も確保できる。

これらのツアーは主に市外へ向けて「有機の里」を周知するためのキャンペーンだが、市民も参加可能とし、（5）事業の具体策①で提案した“キャンペーン「くったいよ」”の参加者は割引でツアーに参加できる等、市民も楽しめる事業として検討する。



（図表 3）

さんぶの森公園案内図（山武町教育委員会「さんぶの森公園」パンフレットより抜粋）

#### (7) 事業の具体策③

最後の具体策は、情報提供である。情報提供の方法は3種類。まずは、図書館資料を充実させることである。農業、家庭菜園、レシピ本等の資料を3年間で合計500冊収集し、また日本で唯一の日刊農業専門紙である「日本農業新聞」を所蔵する。

次に、農文協が運営する農業情報サイト「ルーラル電子図書館」を導入する。「ルーラル電子図書館」には、農文協が発行した雑誌・書籍等が700冊以上収録されており、その記事の閲覧や約500本の農作業ビデオが視聴可能である。また、病害虫の診断や防除方法、栽培技術、加工・販売のノウハウまで、農業に関する様々な情報を得ることができる。

最後に、パスファインダーを作成、配布し、農業についての調べ方や相談先等の情報を市民に提供する。

#### (8) スケジュール・連携先

事業は、3年計画で行う。

1年目	(1) 資料収集、ルーラル電子図書館の導入、パスファインダーの作成・配布 (2) キャンペーン「くったいよ」企画、フライヤー作成等 (3) ツアー企画
2年目	(1) 資料収集、ルーラル電子図書館の提供、パスファインダーの配布 (2) キャンペーン「くったいよ」広報、開催 (3) ツアー企画、フライヤー作成等
3年目	(1) 資料収集、ルーラル電子図書館の提供、パスファインダーの配布 (2) キャンペーン「くったいよ」広報、開催 (3) ツアー広報、開催

連携先は、行政（農政課、商工観光課、秘書広報課、運動公園管理事務所）の他、山武市有機農業推進協議会、農産物直売店「山武緑の風」（JA山武郡市）、山武市商工会、山武市観光協会、さんむエコノミックガーデニング推進協議会、千葉県有機農業推進協議会等を検討している。

#### 4. おわりに

今回提案する「山武市有機の里プロジェクト」では、キャンペーン「くったいよ」・ツアー・情報提供の3事業によって、経済活性化へのループを作り上げていくことを意識した。それは、①山武市・農業について知る、②講座や試食等で楽しさ・おいしさを体験、③直売店で購入意欲の向上、④前述の①～③を口コミやSNS等で拡散する。そのことで、より多くの方に山武市・農業について知る機会を設けることができ、①～④の「知る」・「体験」・「購入」・「拡散」を繰り返していくというものである。

また、事業を企画するにあたり、私は図書館を観光資源の一つとして考えた。当館はさ

んぶの森公園内に立地し、さんぶの森文化ホールとの複合施設である。さんぶの森公園は124,512 m<sup>2</sup>の広さを有し、バーベキューピットやローラーすべり台等の遊具、芝生の広場等もある市民の憩いの場であるとともに、市外からの来園者も多い。このような立地を活かし、図書館が中心となることができる市の課題解決策として「山武市有機の里プロジェクト」を提案する。

将来的には、さんぶの森公園を会場とするファーマーズマーケットの開催や学校給食で山武市産有機野菜を提供する等、市の事業として実施することで「山武市有機の里プロジェクト」は規模を拡大することができ、「認知度向上で経済活性化を図る」という目的達成と、より大きな効果が得られると期待できる。そのなかで図書館は様々な支援を行い、また連携の核となることができるような体制づくりを目指していきたい。

最後に、アドバイザーの神代先生、そしてワークショップで一緒に企画を作り上げてくれた6班の皆様、講師および関係者の皆様に御礼申し上げて結びとする。

#### <引用文献>

- \*1 千葉県ウェブサイト  
「令和元年度（2019）財政状況資料集」山武市  
(<https://www.pref.chiba.lg.jp/shichou/zaisei/zaiseijouhou/r1-zaiseijokyou.html>)（2022年3月21日）
- \*2 山武市「行政区別年齢別総計表」2022年2月28日現在  
([https://www.city.sammu.lg.jp/data/doc/1646050422\\_doc\\_37\\_0.pdf](https://www.city.sammu.lg.jp/data/doc/1646050422_doc_37_0.pdf))（2022年3月21日）
- \*3 内閣府地方創生推進事務局ウェブサイト  
千葉県及び千葉県山武郡山武町「構造改革特別区域計画」  
(<https://www.chisou.go.jp/tiiki/kouzou2/kouhyou/031222/018.pdf>)（2022年3月21日）
- \*4 農林水産省ウェブサイト  
「市町村の姿 グラフと統計でみる農林水産業 千葉県山武市」  
(<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/12/237/index.html>)（2022年3月21日）
- \*5 千葉県山武市『山武市地域新エネルギービジョン～バイオマスエネルギー具体化検討～』山武市役所経済環境部農林水産課バイオマス推進室,平成21年（2009）2月  
([https://www.city.sammu.lg.jp/data/doc/1582616748\\_doc\\_4\\_0.pdf](https://www.city.sammu.lg.jp/data/doc/1582616748_doc_4_0.pdf))（2022年3月21日）
- \*6 農林水産省ウェブサイト  
農林水産省生産局農業環境対策課「有機農業をめぐる事情及び有機農業推進施策の状

況」令和2年（2020）9月，p.3.

(<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/attach/pdf/jichinet-42.pdf>)  
(2022年3月21日)

\*7 農林水産省ウェブサイト

「有機農業の推進に関する基本的な方針」令和2年（2020）4月30日公表

(<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/attach/pdf/sesaku-11.pdf>)  
(2022年3月21日)

\*8 農林水産省ウェブサイト

農林水産省大臣官房統計部「令和元年度 食料・農林水産業・農山漁村に関する意向調査 有機食品等の消費状況に関する意向調査」令和元年（2019）11月19日公表，  
p.16.

(<https://www.maff.go.jp/j/finding/mind/attach/pdf/index-17.pdf>)（2022年3月21日）

<参考文献>

- (1) 総務部企画政策課編『第2次山武市総合計画』千葉県山武市，2019年
- (2) 高山リョウ構成・文『密着！お仕事24時 3』岩崎書店，2019年
- (3) 市場情報評価ナビM i e N a 「2021年度版特定市町村レポート（千葉県山武市）」  
日本統計センター（2022年3月5日）
- (4) 金融財政事情研究会編『第14次業種別審査事典 第1巻』金融財政事情研究会・きんざい，2020年
- (5) 農事組合法人さんぶ野菜ネットワークウェブサイト  
(<https://sanbu.chiba.jp/>)（2022年3月21日）
- (6) 徳江倫明著「千葉県を“有機の里にする”」  
(<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/attach/pdf/jichinet-32.pdf>)  
(2022年3月21日)
- (7) 千葉日報ウェブサイト「まさか…山武が最下位！？ 全国市区町村魅力度ランク市長「知名度アップに奮起」」，2020年10月27日  
(<https://www.chibanippo.co.jp/news/local/735144>)（2022年3月21日）